

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2019No.148】(HP 掲載)

分類：MQA-CD

作曲家：

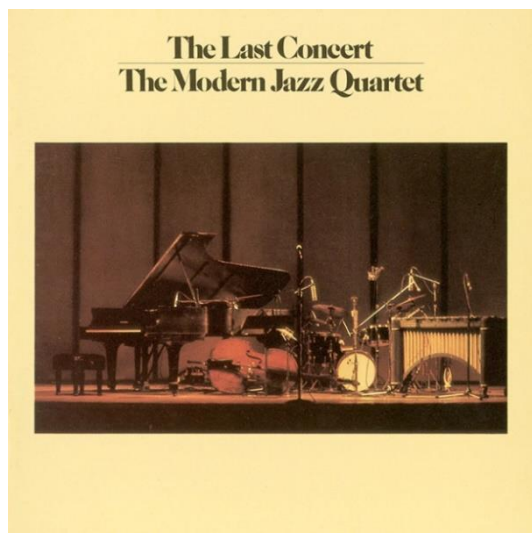
曲：ラスト・コンサート

演奏：MJQ

発売：ワーナーミュージック

No.：WPCR-18250

概要：



サイト上の解説を引用して下記に転載します。

「1975年作品、アナログ・テープを基にした192kHz/24bitから作成した2011年DSDマスターを176.4kHz/24bitに変換して収録

長きにおよぶグループ活動に終止符を打つことを決意、至上の名演を残したMJQの代表作。完成度の高さで他の作品を圧倒する。

録音：1974年11月25日 NY, リンカーン・センター「エイブリーフィッシャー・ホール」にて

ジョン・ルイス（ピアノ）

ミルト・ジャクソン（ヴァイヴ） パーシー・ヒース（ベース）

コニー・ケイ（ドラムス）」

【収録曲】

ディスク 1

01. 朝日のようにさわやかに

02. シリンダー

03. サマータイム
04. トラヴリン
05. Aマイナーのブルース
06. ひとしれず
07. バグス・グルーヴ

ディスク 2

01. コンファメーション
02. ラウンド・ミッドナイト
03. チュニジアの夜
04. ゴールデン・ストライカー
05. スケーティング・イン・セントラル・パーク
06. ジャンゴ
07. ホワッツ・ニュー

対応するアナログ盤と CD がありましたので聴き比べてみました。

この MQA-CD は、CD に比べて、ヴィブラフォンやピアノのアタック音が明晰であり、ベースのピチカートもはっきりして音階が分かりやすくなっています。また、ドラムスなどの位置関係もはっきりしています。

これに対し、アナログ盤は、全体の響きが豊かですが、アタック音などは、柔らかめになっています。

音質的には、ディスコグラフィー【2019No.145】からディスコグラフィー

【2019No.147】までの MQA-CD は、最初のリマスターが 96kHzPCM であるのに足し、本 MQA-CD は 192kHz/24bitPCM から作成した 2011 年の DSD リマスター経由ですので、その効果がでているようです。

以上